

令和6年度 第1回朝来市部活動在り方検討委員会 記録

日時 令和6年8月9日（金）13：30～15：45

場所 和田山生涯学習センター

1 開会

2 委嘱状交付

3 あいさつ 教育長

4 講演

今こそ地域力が試される！「部活動の地域移行(≒地域展開)」

兵庫教育大学大学院 教授 森田 啓之 先生

5 報告

「朝来市部活動の現状等について」

6 協議 「部活動の地域連携・地域移行について」

【委員からのご意見】

- ・生徒数が少ないということで、大会とかに出られないのは残念なので「多様性」という観点は大切である。
- ・わが子は部活動で友達とわちゃわちゃとしているのが楽しそう。そういう仲間ができるのが部活動ならではのと思う。だから地域移行で、部活動にかわるそういう場所があるのは、子どもたちにとっていいと思うし、必要だと思う。
- ・数字で見ると、確実に子どもが減っている。クラスだけではない、ほかの居場所があることはよかったと思っていた。
- ・少子化で子どもが少ない中で、続けていくには、学校の先生の業務量が多いこともあるので、地域にちょっとずつ移行していくことが大事だと感じた。
- ・クラブを通じて、勝ったり、市で優勝したりすることも大事だが、強くするとか教育するとかいうわけではなくて、そういうチームが地域にあることが、子どもたちの根づいていけば、朝来市に帰ってくることにつながるのではないかと話を聞いて感じた。
- ・先生のご負担だったんだと思った。小学生の子に「部活動何したい？」と聞くと、「今は何もやりたくない」と言う。やりたいと思った時に、受け皿があればいいと思う。
- ・中学生が団体に入る場合は、「学校では、弦楽器ができない。弦楽器をしたいから」という理由で入るといふ子がいた。今年、学校に吹奏楽部がないけど、音楽を楽しみたいから入るといふ事例があった。

- ・当団体も小学校2～3年から、60人くらい入っているが、運営に携わる人たちをボランティアでお願いしている。そこを考えていかないと、たくさん子どもたちがやっているが、活動がやっていけない状況になったら困ると思った。
- ・森田先生の話聞いて、考えを広く持てると思った。地域で受け入れるので、今までのスポーツや文化活動は、中学校の先生のウエイトや努力を、地域の思いを受けてされていたととても感じさせてもらえた。だから余計にこれまでのやりかたにこだわる方も多いと思う。
- ・新たなイメージで部活というものを考えていかないといけないなら、「意識改革」が一番大事ではないか。保護者や一般の方を含めて「意識改革」をしていかないとなかなか前に進めないのではないかな。
- ・朝来市の計画を見ている、来年度からスタートして、できることからやらないと間に合わない。
- ・文化活動では、絵画や習字、いろんなものがあるが、中学生は種目が限られたり、指導者と中学生のニーズとかみ合ったりしにくい気もする。意識を変えて、指導者が指導という立場ではなく、一緒に面倒見ましょうという軽い気持ちでないと、協力できないのではないかと考える。大人がしり込みするのではないかな。「意識改革」をしなければ、中学生の思いを大事にしてやろう、と結びつきにくいのではないかな。
- ・海外ではスポーツも文化活動もそんなに力んでいない。今後の新しい姿をどう描くのかという「意識改革」を保護者だけではなく、地域全体で考えていただきたい。
- ・今の子どもは、スポーツへの意欲が減ってきている。スポーツでなくても絵でも写真でも文化活動でもいい。好きなことを子どもたちができたらいいと思う。
- ・野球やったら野球、サッカーやったらサッカーだけではなく、いろんな種目をやるほうがいい。
- ・地域的に生野から和田山のどこかでできればいい。生野だけではできない。和田山に集まってもいいが、朝来で一つのグループを作ってやるのもいいのではないかな。
- ・部活動の教育的効果は、人との関わりを持つことによる協働作業で、社会生活に出たときに一番大事な力である。部活動を地域移行・連携は後戻りできない。やらないとだめで、できるかできないかではなく「できる」とする。
- ・他の自治体は4～5回している自治体もある。他の自治体は「課題ばかりで、できないけど、やろうよ」という雰囲気がある。やらないといけないという方向でいってほしい。もちろん、人材確保、受け皿、財政、どの自治体でも出てくる。でもやることはできる。示していただいた計画で、「可能なところから取り組む」というところがいいと思う。国が言う令和8年は間に合わない。だから令和9年にはこれをやります、というところの逆算で計画を立てていただいて、例えば、絶対土日は地域移行するときめて、人材確保をどうするかという第2回目、第3回目の中心的な議題をあげていただきたい。
- ・これを教育委員会がするのか、生涯学習課がするのか、学校がするのか、どこがリーダーでやっていくかを定めることが必要である。
- ・地域が子どもたちを育てていくことをやっていただきたい。子どもも減るが、現役世代も減る。現役世代のお父さん、お母さんが、やろうよという雰囲気を

朝来市が作れるかどうか。後戻りできないというところを認識していただきたい。

- ・朝来市全部でやらないと教育委員会だけでやるのは、荷が重すぎる。朝来市だからこそできることは何かにスポットライトを当ててやってほしい。
- ・皆さんでやりましょうという雰囲気を作ってほしい。これは絶対できることだと思います。
- ・神戸市がやっているように、朝来市もゴールを決めて、ゴールに向けてやっていくほうが良い。ゴール設定をお願いしたい。
- ・市のほうで専門的に推進してもらうようなアドバイザーをおかないと、いつまでたってもどこかで詰まってしまう。
- ・先生、保護者、子どもがどう思っているかがすごく気になる。ある自治体のアンケートでは先生の4割は関わりたくない、4割は無関心、1～2割は関わりたいという結果が出ている。本市の先生はどう思っているか、子どもや先生、保護者がどう思っているかという意識調査をしないと前に進まない。それを踏まえて、朝来市で何ができるかを考えていただきたい。
- ・地域連携・地域移行についての市のビジョンを示して、広報で周知することで、機運を高めることも並行して行ってほしい。令和8年度4月にこうなると言ってもらえると、ありがたい。
- ・超過勤務の問題は、先生方の協力があって成り立っていると改めて思った。中学校においては、部活動指導において、平日は4時30分ごろから6時30分ごろまでかかわっていて、毎日2時間の超勤をさせていただいている。土日を含めて100時間を超えるのは当然になる。会議や教材研究は、部活動が終わってから始めるというのが現状で、それが何十年も続いている。
- ・集団スポーツと個人スポーツは大きく違う。集団スポーツになると、同じ思いをもって集まってもレベル差があったり、ただ好きだから来たりしている子もいる。部活動に参加している意義を同じ部活動という箱でとらえられない、多様化していると思う。
- ・意識改革、教職員、子ども大人、地域の意識改革を同時並行で進めないと、「中学生のスポーツ・部活動は学校がする」という意識がある。子どもたちは、発表の場が欲しい、試合があれば勝ちたい、勝たしてくれる指導者に教えてほしいとエスカレートする部分がある。「する・みる・ささえる」といわれる時代になって、競技スポーツと生涯スポーツを切り離すこともひとつ。楽しみたいこと強くなりたい子が同居すると、温度差が生じてしまうなどの弊害があるのではないかな。
- ・受け皿団体の確保を待っていると、何年たってもできない。目標を決めて、この年には、これで出発すると、逆算してやっていかないと進まない。
- ・受け皿団体のさまざまな可能性のヒアリングをしてほしい。こういう話が前提にあってひきうけていけそう？ときく。
- ・市民に周知することから、それを進めながら、同時並行的に地域の皆さんがもっているネットワークから受け皿になりうる団体を把握しながら進めていけたらいい。
- ・先にやっているところは、全種目一斉スタートではなく、何となく低学年から実施できている団体からスタートとか、合同部活動からクラブ化するやり方等、いろんなやり方があると思うので、生涯学習課と学校教育課の中でタッグを組んでやって

ほしい。

- ・放課後に学年を超えてわちゃわちゃする時間は貴重である。昔は中学校に、週1回必修クラブがあった。
- ・部活動は教育課程外であることを知らなかった。
- ・土日の試合でレギュラーは、練習試合をしていいかもしれないが、補欠の子は、1時間かけて行って、ライズマンをして帰ってくることもある。それで楽しかったのかなと思って、子どもに聞くと、「一緒の車でワイワイ行ったのが楽しかった」と言ったから、それでいいのか、とも感じた。
- ・地元の小学校の体育館を借りてバドミントンやバレーをする日があって、7～9時ごろまでやっている。毎日やっている。遠征に行くくらいなら、そこに行けたらいいのに、と思ったこともあった。ボールに触れる経験ができるなら、それができればいいなと思った。
- ・夏休みにシルバー人材センターでこどもの絵画教室、書道教室をやっている。絵や書道の得意な方が指導をしてくださるが、毎年参加させて、作品をかいて帰ってくるが、そこに行かせている保護者は、朝来町や生野町からも申し込みをしてこられている方がいる。こういうのも必要だと思う。各自治協単位で、募集をされたら、受け皿はわからないが、もっといろんなことがあれば、ニーズはすごくあると思うので広がればいいなと思った。
- ・地域移行・地域連携だが、小学校に地域の人が行ってはいけないという意識があった。門は閉められる、学校に地域が行きにくい面があると思う。地域の人にこうしてほしいということを学校側が伝えて、学校を開いていくことも一つのアクションになると思う。

閉会